

## 実践 1

### 誰もがリーダーを務められる学級 ～よい学級からすべての児童が満足する学級へ～

#### 1 学級集団の状況（小学校6年生 男子19人，女子18人）

本学級は，どちらかという性格的に素直で大人しい児童が多い。また，表立って和を乱そうとするような児童はほとんどいない。朝の会などでは，担任がいなくてもリーダーを中心として決められたプログラムをみんなで真面目にこなすことができる。合唱をするときも，一生懸命に口を開き，きれいな歌声になるように努力する児童が多い。担任としても，ほとんど苦勞のない学級であると言える。5月下旬，Q-U（学校生活アンケート）を実施したところ，「学級生活満足群」に属する児童が39人中33人（約85%），学校生活意欲尺度では，「高意欲児童群」に属する児童が31人（約79%）という結果であった。集団としてのルールが初めからある程度できており，この数値からみても児童にとって居心地のよい学級であると思われる。

では，本学級の課題をいして挙げるとすれば何か。大きく分けて二つあると思われる。一つは，リーダーが固定化していることである。自己主張のはっきりとした3人の女子が「みんなのためにがんばりたい」という気持ちを全面に出し，いろいろな事を次から次へと進めていく。反対に他の児童は，みんなで取り組まねばならないこともリーダーに任せてしまう傾向にあり，声を掛けたり手を貸したりすることは，どちらかという苦手のように思われる。もう一つは，少数ではあるが6人（約15%）の児童が「非承認群」に属しているということである。一般に「非承認群」の児童は，学級内で認められることが少なく，自主的に活動しようという意欲が乏しかったり，無気力であったり，自己表現の仕方が分からなかったりするなど，居場所を見いだしていない傾向にあると考えられる。本学級では，「学級生活満足群」に属する児童が多いことで，かえって強い疎外感をもっている可能性もあると思われる。

以上のことから，この学級をさらに良くしていくために，仲間から承認されていないと感じている数名の児童も含めた「学級のすべての児童が充実した学級生活を送ることができること」，さらには，リーダーが固定化している状況から，「誰もがリーダーを務めることができるような学級づくり」を願って実践を進めることにした。そして，まず第1学期には，自他共によく理解し合うことと，互いに認め合える雰囲気づくりを目指し，第2学期以降は，信頼し合い，喜びを分かち合える仲間づくりを実践のねらいとして位置付けることにした。

ここでは，教師のとった手だてと児童の変容ぶりについて述べる。

#### 2 実施した場面と時間

| 月 | 主な行事 | 活動の場面 | ねらい  | 内 容  |
|---|------|-------|------|--|
| 4 | 始業式  | ①朝の会  | 友達理解 | 「サイコロトーク」<br>仲間一人一人のことを理解するきっかけとなるよう全員が行う。                   |
|   |      | ②帰りの会 | 友達理解 | 「いいところ見つけ」<br>年間を通してのプログラムとし，その日，友だちのよかったこと，がんばったことなどを紹介し合う。 |
| 5 | 授業参観 | ③学級活動 | 他者受容 | 「ブレインストーミング ～9月に完成する運動場の芝生の                                  |

|    |               |    |                                |   |
|----|---------------|----|--------------------------------|---|
|    |               |    | 認め合う学級づくり                      | 上で、仲間づくりのためにできることは何か～」<br>自分の思いつきや考えを、否定されることなく発言する活動を通して、自由な学級の雰囲気をつくる。  |
|    |               | 4  | 道徳<br>友達理解                     | 「仲間はずれのロールプレイ」<br>「リーダーの固定化」脱却をねらい、ふだん相手のことを考えないで行動していることがあることをロールプレイにより実感する。   |
| 6  |               | 5  | 体育<br>よさを認め合う                  | 「たたかい終えて～チーム対抗相撲大会～」(本文参照)  |
|    |               | 6  | 総合的な学習の時間<br>他者受容<br>認め合う学級づくり | 「ブレインストーミング」(本文参照)  |
|    |               | 7  | 総合的な学習の時間<br>他者受容<br>認め合う学級づくり | 「質問ジャンケン」(2～3人組) (本文参照)   |
|    |               | 8  | 総合的な学習の時間<br>他者受容<br>認め合う学級づくり | 「質問ジャンケン」(6～7人組) (本文参照)   |
| 7  |               | 9  | 学級活動<br>『さわやかになろう集会』           | 学期のまとめ<br>「サイコロトーク」「人間いす」「いろいろジェスチャー」「下の名前チェーン」<br>児童が交代でリーダーとなり、次々にショートエクササイズを実施する。<br>「神様ですか」(担任が実施)<br>目を閉じて神様を探し、見つかったらそのまま手をつないでいく。最後に目を開け、一つの輪になった感動を味わう。 |
| 9  | 運動会           | 10 | 道徳<br>思いやり                     | 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」(本文参照)   |
| 10 | 修学旅行          | 11 | 道徳<br>よさを認め合う                  | 「いいところ見つけ～運動会編～」(本文参照)  |
| 11 | 市音楽会<br>(合唱祭) | 12 | 学級活動<br>よさを認め合う                | 「わたしたちの得た宝物」(本文参照)  |
|    |               | 13 | 学級活動<br>傾聴                     | 「『なるほど』と『!』(びっくり)」<br>2人組でジャンケンをし、勝った方が最近の出来事や思っていることを紹介する。聞き手は、「なるほど」か「!」のどちらかを提示する。自分のことを気持ちよく聞いてもらうことで、相手に対して好意的に接することができるようにする。                             |
| 1  |               | 14 | 学級活動<br>感受性の促進<br>(自己理解・他者理解)  | 「今の私は何色？」<br>卒業を2か月後に控え、自分の気持ちを、色を選ぶことで確かめ、伝え合う。  |
| 2  | 授業参観<br>(最終)  | 15 | 学級活動<br>(授業参観)<br>信頼体験         | 「信じ合える仲間を目指して」<br>1年間の仲間づくりを振り返るとともに、児童がいくつかのエクササイズを行う。   |

|   |     |          |      |  |
|---|-----|----------|------|--|
| 3 | 卒業式 | 16 卒業式直前 | 感動体験 | 「入場前のハンドパワー」<br>卒業式会場へ入る前に、目を閉じて前の人の両肩に自分の両手を添える。最高の卒業式にしようと心のメッセージを送り、仲間との一体感を体験する。 |
|---|-----|----------|------|--|

### 3 実践

4月、5月は、「いいところ見つけ」などのエクササイズを実施することにした。学年始めの時期は、まず肯定的な学級の雰囲気づくりを図り、そこから来る安心感を広げることが大切である。肯定的に感じたことを伝え合い、さらにまた肯定的に受け止めることを繰り返すことで、それまで以上に互いを認め合う温かな雰囲気の学級に育っていくと考えたからである。

6月は、体育、総合的な学習の時間にも構成的グループ・エンカウンター（S G E）を採り入れて、仲間を受け入れ、互いを認め合う雰囲気づくりを促進化させることにした。

#### (1) 活動5 「たたかい終えて ～チーム対抗相撲大会～」

##### ア ねらい

- ・ 互いのチームのがんばりを認め合うことから、信頼関係を築いていく。

##### イ 活動の内容

- ・ チームごとで、相撲をとる順番を決めたり、作戦を伝授し合ったりして、本番に 備える。
- ・ 班対抗のトーナメント形式で行う。相撲をとる前と後は、相手チーム全員と握手 をする。
- ・ 試合後、チーム内でシェアリングをする。（相手のよいところ、自分たちの努力 したところを用紙に書き、話し合う。）
- ・ 全体でシェアリングをする。（他のチームのよいところ、自分たちの努力したと ころなどを紹介し合う。）

##### ウ 参加者の様子と課題

相撲やその応援をする児童の様子には、元気さと盛り上がりが見られた。シェアリングにおいて記された「みんな勝っても負けても笑顔でいい」「負けても、誰一人（味方を）責めなかった」といった感想からは、学級を包む温かな雰囲気とともに「互いを認め合う」というねらいに迫る姿を感じることができた。

今回のS G Eは全員参加型であり、体を使ったエクササイズであったためか、教室で行った4月、5月のエクササイズと比べると、自己開示、他者受容の促進という点で得られた成果が大きいように感じられた。動きのある活動が、心に働きかけのではないかと思われる。

#### (2) 活動6 「ブレインストーミング」

##### ア ねらい

- ・ 自分の思い付いた学習課題を、否定されることなく自由に発言する活動を通して、学習に対する前向きな気持ちを高める。
- ・ 互いの学習に対する考え方を認め合うことで、どのような活動においても学級の雰囲気を高められるようにする。

##### イ 活動の内容

- ・ 友達の意見を否定しないことを確認する。
- ・ 修学旅行の事前学習に向けて、班のテーマに従って個人課題をどう設定するか考える。
- ・ 6～7人グループの中で、自分の考えたことを順番に何度も発表し合い、聞き合う。
- ・ グループや学級で感想や気が付いたことを話し合う。

#### ウ 参加者の様子と課題

「ブレインストーミング」は、5月に続いて2度目のためスムーズに行うことができた。友達の述べる意見の一つ一つに「うん、うん」とうなずいたり、「おー!」「なるほど!」と言ったりするなど、肯定的に受け止めようとする姿が見られた。感想の中には「やらなきゃと思って話し合っていたので、今度は気持ちを自然に言いたいです」と、グループでの話し合いに自然な雰囲気が出ていたと感じる児童もいたが、仲間一人一人を大切に、学習に前向きに取り組もうとする気持ちの高まりを十分に感じることができた。

### (3) 活動⑦「質問ジャンケン」(2～3人組)

#### ア ねらい

- ・ ゲーム感覚で質問に答える中で、友達の感覚を肯定的に認め合える雰囲気づくりを更に進める。
- ・ 修学旅行の事前発表会に向けて、自分の課題についての考えを深める。

#### イ 活動の内容

- ・ ルールを確認する。( 相手を困らせない質問をする 分かりやすく、しっかり答える 分からないときは「分かりません」と答えてよい)
- ・ 2～3人でグループとなり、これまで学習して分かったことを一人一人発表する。
- ・ ジャンケンをして、勝った人が負けた人に発表内容についての質問をする。

#### ウ 参加者の様子と課題

修学旅行の事前発表会に向けて自分の課題についての考えがまとまらない児童も、2～3人という少人数でのエクササイズを通して、徐々に具体化できていく様子が分かった。シェアリングの感想にも「 さんが してくれた」という友達への思いを記す内容が多く書かれていた。互いに認め合う雰囲気と学習意欲が互いに相乗効果をもたらしているように感じた。ただ、「たくさんの人の前で質問されると、恥ずかしく戸惑うけど、2、3人だと心が自然に開ける」のように、自分が相手にどのようにかかわろうとしたかという前向きな自己開示という点で今一步の感も残った。そこで、さらにグループによる活動を継続することにした。

### (4) 活動⑧「質問ジャンケン」(6～7人組)

ア ねらい 活動7「質問ジャンケン2～3人組」に同じ

イ 活動の内容 活動7「質問ジャンケン2～3人組」に同じ

#### ウ 参加者の様子と課題

今回は1グループの人数を増やし、再び「質問ジャンケン」を行った。シェアリングの感想には、「話しやすい雰囲気になりました」「私が迷った時に、助けてくれたり笑顔で聞いてくれたり、落ち着いて話せばいいよって言ってくれた」のように、友達への感謝の心を感じさせるものが多く、それは本時のねらいとした「肯定的に認め合える雰囲気づくり」に迫る児童の姿と言って良いだろう。

総合的な学習の時間において、活動⑥～⑧を継続して実践したことが、児童たちの素直な思いを引き出し、学級集団を大きく成長させることにつながったと考える。

7月になると「先生、サイコロを貸してください」という声をしばしば聞くようになった。4月に行ったエクササイズ「サイコロトーク」を自分たちから行おうとする姿が見られ始めたのである。その活動が、自分たちにとって有益であると実感しているからこそその動きと言えよう。

さらに、1学期最後の学級活動では「さわやかになろう集会」と題して、子供たちでできるエクササイズに取り組んだ。リーダーがいつもの担任でなく、イベント系の児童が交替で行ったこともあって、導入の段階からいつも以上にリラックスしたムードに包まれ、積極的に取り組む姿が見られた。その姿からは、学級目標「GOOD スマイル」に近づきたいと願う児童の気持ちが十分に伝わってきた。また、学年始めに子供たちに対して抱いた「大人しい」というイメージがかなり変化してきたと同時に、リーダーが固定化している学級という感じもかなり薄れてきたように感じた。

写真1 人間いす



写真2 神様ですか？



これまでの実践を通して集団としての土台づくりがほぼ完成したと考えた。そこで、第2学期以降は、これまでに培った互いを認め合う学級の雰囲気大切にしながら、「信頼し合い、喜びを分かち合える仲間づくり」を目指す学級の姿として実践を進めることにした。

2学期の実践を進めるに当たり、固定化したリーダーで主張のはっきりとしたA子、5月のQ-U（学校生活アンケート）で非承認群に属していたD子・E男を抽出児童として注目し、その変容を追跡することにした。学級集団のさらなる飛躍への鍵を握っていると考えたからである。

#### (5) 活動⑩「ふわふわ言葉とちくちく言葉」

##### ア ねらい

- ・ 固定化した人間関係の中で、何気なくつかつてきた言葉を見直し、学級の一人一人を大切にすることをさらに高める。
- ・ ゲーム感覚で質問に答える中で、友達の感覚を肯定的に認め合える雰囲気づくりを更に進める。

##### イ 活動の内容

- ・ 言われると悲しくなったり、イライラする言葉を「ちくちく言葉」と名付ける。
- ・ ちくちく言葉をどんどん出し、黒板の左半分を書く。
- ・ うれしくなる言葉、元気が出る言葉を「ふわふわ言葉」と名付け、黒板の右半分を書き出す。
- ・ 出された言葉をグループ（6，7名）内で言い合う。

- ・ それぞれどんな気持ちでしたかを用紙に書き，発表し合う。

#### ウ 参加者の様子と課題

A子は，この体験を通して，「いつもは何気なくつかっている言葉がこんなに人の心を傷つけていることをとても感じました」「(ちくちく言葉は)自分も心がチクチクするのに，今までなぜあっさり言っていたんだろう」と感想に書いた。すでに，1学期当初に比べて，仲間のことを思いやれるリーダーに育ってきているように感じていたが，思いやりある言葉をかける必要性を実感し，一人一人を大切にできるリーダーとして更に成長できると感じた。

D子の感想「ふわふわ言葉は，とても言いやすかったです。自分も言われてうれしくなります」からは，温かい言葉遣いのよさを十分に感じていることが分かる。さらに，日ごろ仲間に対しては受け身の行動が多いD子が，「ふわふわ言葉を言われるとうれしい」という段階に留まらず「他の人とか友達とかにも言ってあげたいです」と，前向きな姿勢を示したことが教師には大きな成長であると思えた。

E男は「『キモイ』とか『ブサイク』とか『何言ってるの?』」とか言われるのを体験して，とても嫌な気持ちになったけど，ふわふわ言葉のとき，『ファイト!!』とか言われて，とてもいい気持ちになりました」と書いてきた。非承認群の児童にとっては，受動的な立場で物事を考えることはできても，「今後こうしたい」という能動的な気持ちを引き出すことは容易ではないと感じた。

### (6) 活動 11 「いいとこみつけ ～運動会編～」

#### ア ねらい

- ・ 学級の仲間一人一人をすべて大切にすることをさらに強め，認め合うすばらしさを味わう。

#### イ 活動の内容

- ・ 学級全員(38名)のネームプレートを黒板に貼る。
- ・ 運動会(準備から当日，そして後片づけまで)を通じて一人一人ががんばっていたことをできるだけ多く用紙に書く。
- ・ 全体の場で紹介しあい，38名全員のことが紹介されたら終了とする。(自分にとって，紹介される順番が問題でないことを押さえる)

#### ウ 参加者の様子と課題

認められることの喜びは，誰もが感じる場所である。とりわけ，自分が必死になって努力したことが分かってもらえたときは，この上なくうれしい。A子は，運動会で白組応援団長として活躍した。1か月間にわたる運動会にかかわる活動で，学校や学級の中心的な役割を果たした。このシェアリングでは，「ちゃんと見てくれたんだなあ。分かってくれたんだなあ」と，うれしさを素直に書き表してきた。そして「みんなもがんばったと思います」と，友達の努力を認めるところにその成長ぶりを感じることができる。

E男も，「自分が最後らへんに言われたとき，とてもうれしかったです。自分が大声でがんばって応援したことを思ってもらえて，とてもうれしかったです」と，友達に認められた喜びを素直に表してきた。自分のがんばりが友達にどのように映っているのかは誰しもが気になる場所である。「最後らへんに」という言葉には，友達の発言を気にしながらもじっと聞き入る姿と，「僕も忘れられてはいない」という実感のこもった喜びをうかがうことができる。それは，短い感想の中に「とても」を繰り返しているところに強く感じられる。

D子は、仲間のことを十分に紹介できなかったことを振り返り、「あまり手を挙げられなかったと思います。……他にも裏であまり見えないところでがんばっている人をもっと見つけれられるといいな」と書いてきた。ここには、友達から「認められたい」という思いだけでなく、自分も友達を「認めたい」という前向きな姿勢を感じることができる。シェアリングでの友達の姿から「認め合う」ことの素晴らしさを感じ取ったからと思われる。

9月から10月ころにかけて、子供たちの笑顔がしだいに増え、学級の雰囲気も日が経つごとに良くなっているように感じられた。エクササイズにも明るく積極的に取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、10月に実施したQ-Uにおいて、G男のように「学級生活満足群」から一転して「学級生活不満足群」に移ってしまった児童もあり、その様子をつぶさにとらえ、見守っていく必要があると感じた。

#### (7) 活動 12 「わたしたちの得た宝物」

##### ア ねらい

- ・ 音楽会の合唱で各自がどのような役割を担い果たしたかを確認し、感動体験を分かち合う。

##### イ 活動の内容

- ・ 準備として、4パートごとに、B紙に自分たちの目標を出せるだけ出す。
- ・ 音楽会の翌日、「君がいたおかげで」と書いた紙に自分の名前を書き、隣の席の人に渡す。
- ・ 教師の合図により、一斉に画用紙の名前の人が音楽会に向けてがんばったことを書く。
- ・ 1分ごとに隣へ隣へと回していき、一回りしたら、自分の紙を受け取る。
- ・ 読んだ感想と、音楽会での感想を宿題に出す。次の学活で班ごとに読み回し、自分たちでよいと思ったものを一人発表する。

##### ウ 参加者の様子と課題

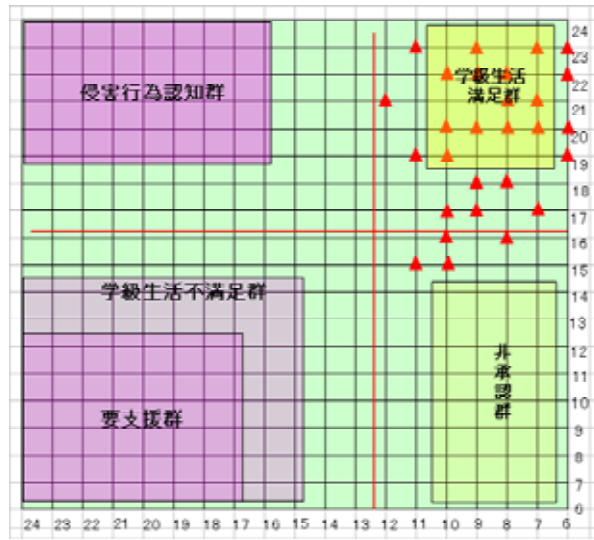
11月、小牧市民会館で行われた市音楽会は、子供たちにとって最高の感動体験となった。6学年児童118人全員の混声四部合唱が終わると、一瞬の静寂の後、会場はゴーッとという拍手に包まれた。その直後のエクササイズであったため、学級の仲間全員から書いてもらった言葉を読む児童の表情は、達成感と充実感などが混ざり合った何とも言えない素晴らしいものであった。

E男の「ぼくはほめられるとうれしくなります。6-3は、心のいい人たちがいて、『GOODスマイル(学級目標)』が似合うクラスです6-3はいいクラスです」や、G男の「みんな見ていないと思ったところも結構見ていたり、分かったりしていました。いい経験になりました。6年3組の人ともやってみたいし、中学に行ってもやってみたいです」といった感想からは、学級の仲間と共に感動を分かち合うこのエクササイズによって、学級全体のチームワーク、児童間の心のつながりをさらに強めることができたと感じる。

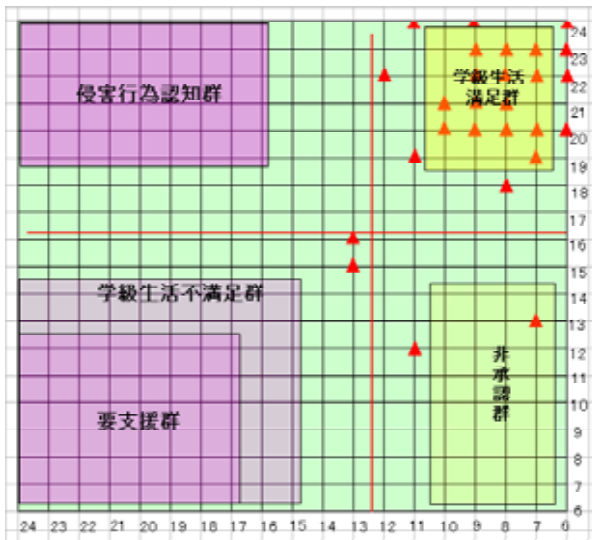
2学期は「信頼し合い、喜びを分かち合える仲間づくり」を目標としてきた。10月初めのQ-Uでは、「非承認群」に属していたD子が「学級生活満足群」に移行し、11月終わりのQ-Uでは、G男が「学級生活不満足群」から脱することができた。また、それまで「非承認群」に属したままでいたE男は「学級生活満足群」に移行するまでにいたった。学級全体でも、「学級生活満足群」に属する児童が全体の89.5%に達し、学級の成長ぶりが実証される結果となった。

4 効果・課題

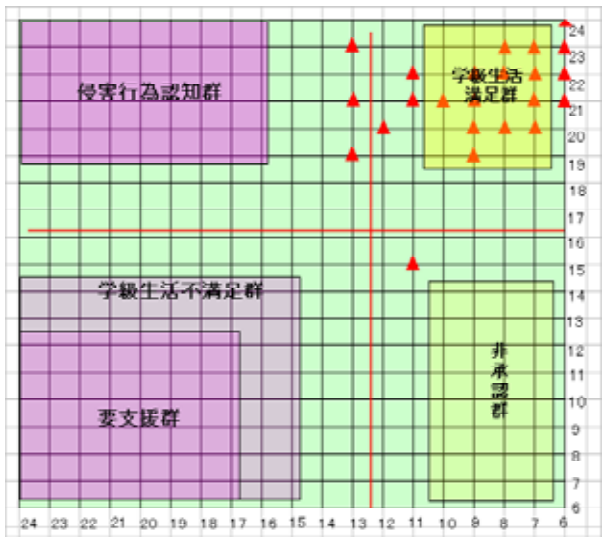
図1 Q - U 分布図の推移



5月下旬



10月上旬



11月下旬

表1 Q - U 群別割合の推移

|       | 学級生活満足群 | 非承認群  | 侵害行為認知群 | 学級生活不満足群 |
|-------|---------|-------|---------|----------|
| 5月下旬  | 84.6%   | 15.4% | 0%      | 0%       |
| 10月上旬 | 89.5%   | 5.3%  | 0%      | 5.3%     |
| 11月下旬 | 89.5%   | 2.6%  | 7.9%*   | 0%       |

\* 11月下旬，侵害行為認知群がわずかに発生したが，学級全体の非承認得点はアップしている



表2 Q-U 項目別得点の推移

|       | 友達関係  | 学級の雰囲気 | 学習意欲  | 学校生活意欲 | 非侵害得点 | 承認得点  |
|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 5月下旬  | 9.625 | 10.15  | 9.45  | 29.23  | 8.45  | 19.05 |
| 10月上旬 | 10    | 10.75  | 9.375 | 30.13  | 8.15  | 19.63 |
| 11月下旬 | 10.18 | 10.95  | 9.825 | 30.95  | 7.8   | 20.5  |

「学級のすべての児童が充実した学級生活を送ること」「誰もがリーダーを務められるような学級づくり」を目標に、学期ごと段階的にねらいの基準を上げながら、様々なエクササイズを実施してきた。Q-Uの結果を見てみると、個人別に、または項目別に多少の揺れはあるものの、全体の数値はほぼさらによい方向へと移行していったことが分かる。

学期別に振り返ってみると、第1学期はエクササイズを積み重ねるたびに認め合う雰囲気が高まり、学級全体のリレーションが着実に高まっていったようであった。第2学期は主に行事との関連を図ったエクササイズの実施を通して、自分が努力したことをほめられたときの喜びを感じたり、みんなで味わった感動体験をさらに高めたりすることができた。

抽出児に目を向けると、D子やE男のように学級生活になかなか充実感をもてない（非承認群の）児童にとって、認め合う雰囲気の中で行った喜びや感動を分かち合う体験が大きな効果を及ぼすことが分かった。A子のように以前からリーダーシップを発揮していた児童は、S G Eを通じて自己中心的な考え方が少なくなり、みんなの気持ちを考えて行動する場面が大幅に増えた。表情にも思いやりとゆとりが感じられるほど成長したと思える。ここで言えることは、学級の成長と個人の成長には密接な関係があるということである。

しかしながら、やはり児童の心の状態は、時期やいろいろな環境により変化する、いつも全員が「学級満足群」に属しているわけではない。また、Q-Uの結果、実際の児童の心の状態、教師が受ける印象が必ずしも一致しないこともある。したがって、年間計画に沿ったプログラムを進めていくという考え方でなく、その時の児童の様子をとらえ、ねらいに合ったグループ・アプローチの設定や教育相談活動をしていく必要があると感じた。

資料1 プログラム

終わりに、数々の「互いを認め合う、喜びを分かち合う」体験が、その後の学級集団、個人のエネルギーになっていったと思われる3学期の様子を紹介してまとめとする。

2月、学年最後の授業参観として、1学期の終わりと同様に、子供たちでできるエクササイズを取り入れた2度目の集会を「信じ合える仲間を目指して」と題して行った。（資料1）

この頃、国語単元「宮沢賢治」の学習の中で、児童は賢治の目指した「まことの幸せ」というものに共感していた。具体的には「世界が全体に幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」という賢治の言葉が、自分た

- 「信じ合える仲間を目指して」のプログラム
- 1 宮沢賢治の「まことの幸せ」(スピーチ)
  - 2 「まことのクラス」(スピーチ)
  - 3 「6年3組の軌跡」(映像と言葉)
  - 4 「学習コーナー」(グループワーク)
  - 5 「誕生日チェーン」(保護者とともに)
  - 6 「人間知恵の輪」
  - 7 「サイコロトーク」
  - 8 「6年3組思い出の合唱」  
～ 『蒼い海』 混声四部合唱 ～
  - 9 「振り返り握手」
  - 10 「雨二モ負ケズ6年3組バージョン群読」

ちが目指す学級目標「GOOD スマイル」の本質に一致すると感じたようである。

エクササイズ「誕生日チェーン」では、自信あふれる進行係の合図により、明るく充実した表情で保護者と交流する児童の様子にまた成長ぶりを実感した。「6年3組思い出の合唱」は、やはりみんなで成功させた音楽会が忘れられず、全員一致で希望したプログラムである。放課も自主的に練習した日々、市民会館での感動、または、S G E「私たちの得た宝物」での喜びを思い出していたのかもしれない。プログラムの最後は、宮沢賢治の『雨二モ負ケズ』にならって児童が作った詩『雨二モ負ケズ6年3組バージョン』(資料2)の群読で締めくくった。この詩の中身が、児童の理想とする学級像なんだと思えた。

資料2 雨二モ負ケズ6年3組バージョン

3月、卒業式が日に日に迫ってくると、「みんなといつまでも一緒にいたい」という声があちらこちらで聞こえ始めるようになった。パートリーダーを中心に、自主的に卒業式の歌練習に取り組む児童の姿を頼もしいと感じた。学年お別れ集会での学級の出し物「思い出の劇とダンス」も知らないうちに練習を積み重ねたようだ。当日初めて見たが、そのチームワークとできばえに驚きとたくましさを感じた。

いよいよ卒業式。朝の歌練習の前、「先生、もうかなり来ています」と一番に涙を見せたG男。

6年3組最後のエクササイズは、教室前の廊下で行った「入場前のハンドパワー」である。卒業式を成功させようという願いが全員のハンドパワーにより広まったのかすばらしい感動的な卒業式となった。

その後、教室に戻り一人一人が最後のスピーチを行った。スピーチが始まった途端に、声を出して泣く子供たち。「みんなのことは永遠に忘れない」「心の底からありがとう」「言葉では言えない最高の仲間だった」……。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも 夏の暑さにも負けぬ丈夫な体をもち  
欲はなく 決していからず  
いつも元気に笑っている  
一日にたくさんの給食とご飯を食べ  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり そして忘れず  
愛知県小牧市の南小6の3にいて  
東にケガの南っ子あれば  
行って保健室に連れていき  
西に疲れた人あれば  
行って励ましてやり  
南にがんばっている人あれば  
行って応援してやり  
北に喧嘩や訴訟があれば  
行ってつまらないからやめろと言ひ  
放課の時はドッジをし  
授業の時はけじめをつけて  
みんなに「GOOD スマイル」と言われ  
「まことのクラス」を目標にし  
一人一人を大切に  
そんなクラスに  
みんなでしたい

< 参考文献 >

- 國分康孝『エンカウンターで学級が変わる』(小学校編) (図書文化社、1996)  
國分康孝『エンカウンターで学級が変わる』(中学校編) (図書文化社、1996)  
國分康孝『エンカウンターで学級が変わる Part 2』(小学校編) (図書文化社、1997)  
國分康孝『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集』(図書文化社、1999)  
國分康孝『エンカウンターで総合が変わる』 (図書文化社、2000)